

## 5. 三歳児健康診断用聴覚検査の臨床例についての検討

村本 恵子\*<sup>1</sup> 田中 美郷\*<sup>2</sup> 山根 仁\*<sup>1</sup>  
押尾 万理\*<sup>1</sup> 三谷 芳美\*<sup>2</sup>

### 目 的

平成2年10月より、三歳児検診に聴覚検査が取入れられた。東京では、第一次検診には医師や検査者は参加せず、家庭で聴覚チェックをしてもらう方式でパイロットスタディを行ってきた。その内容は、アンケート・ささやき声聴取検査・指こすり音聴取検査である。今回われわれは、耳疾患のため帝京大耳鼻咽喉科及び帝京大市原病院を受診し、診断が確定した小児に対し、医師またはSTがこれらの検査を施行し、この方式の有効性を検討した。

### 対 象

帝京大耳鼻科および帝京大市原病院耳鼻科を受診した、3～7歳の小児55名。その内訳は、検査時に滲出性中耳炎が治癒しており健聴と考えられる児20名、未治癒の滲出性中耳炎児24名、感音難児11名であった。

### 方 法

1. 聴力検査：STがプレイオージオメトリーまたはCORテストを行った。
2. 東京都において第二次パイロットスタディ用に作成された以下の検査を、耳鼻科外来にて行なった。

- 1) アンケート：難聴に関する6項目の質問を検者(医師またはST)が母親から聞き取った。今回はそのうち以下の3項目について検討した。(・呼んでも返事をしないことがありますか・言葉が遅れているとおもいますか・話ことばがおかしいと思いますか)
- 2) ささやき声聴取検査：対象児と検者が約1mの位置に向かい合い、対象児に6個の2音節単語がかかれた絵シートを示した。口もとを隠してささやき声で尋ね、答えの絵を指示させた。尋ねるのは1回だけとした。
- 3) 指こすり音聴取検査：検者は対象児の後ろに位置し、児に気付かれないようにして耳の真横5cmぐらいのところ親指と人差し指を5～6回こすった。左右交互に行い、聞こえたら手をあげるなどの合図をさせた。

### 結 果

1. 聴力検査：健聴児群、滲出性中耳炎群、感音難聴群それぞれについて、良聴児の4分平均聴力は、図1のように分布した。各群の平均聴力は、それぞれ12.5dB, 23.1dB, 55.3dBであった。
2. 1) アンケート：健聴児群、滲出性中耳炎児群、感音難聴群それぞれについて、3項目の質問に対する「はい」の答えの割合を表1

\*<sup>1</sup>帝京大学市原病院耳鼻科

\*<sup>2</sup>帝京大学耳鼻科

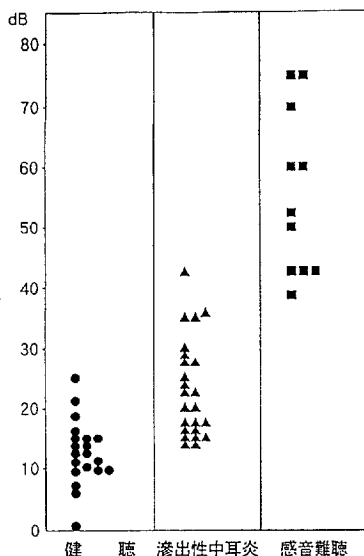


図1 良聴耳の4分法平均聴力

に示す。いずれの質問に対しても「はい」と答えた率は、感音難聴児群、滲出性中耳炎児群、健聴児群の順に高かった。3項目の質問について、「はい」の項目ひとつを1点として、それぞれの児の得点を0～3点で表すと、図2のように分布した。

2) ささやき声聴取検査：図3に各群ごとの正答単語数を示す。健聴児の100%，滲出性中耳炎児の50%，感音難聴児の9%が、6単語中5単語以上正答した。

3) 指こすり音聴取検査：聴力検査をCORで行った5名を除く50名100耳について平均聴力

表1 アンケートに対する「はい」の割合

	健聴	滲出性 中耳炎	感音 難聴
呼んでも返事をしないことがある	3/20 (15%)	17/24 (71%)	11/11 (100%)
ことばが遅れていると思う	0/20 (0%)	67/24 (25%)	8/11 (73%)
話しことばがおかしいと思う	1/20 (5%)	11/24 (46%)	11/11 (100%)

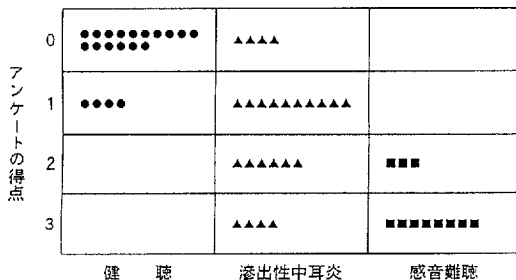


図2 各群ごとのアンケートの得点

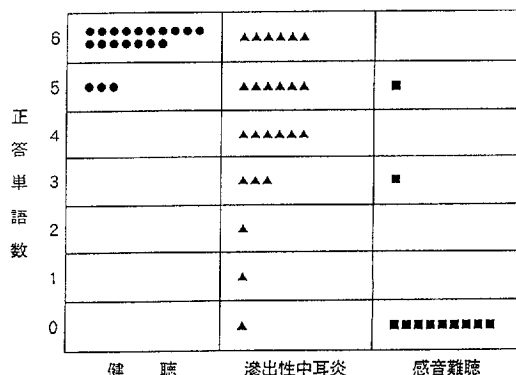


図3 ささやき声聴取検査

と応答の関係を表2に示す。平均聴力20dB以内で100%が、31～40dBでも80%以上が指こすり音に回答した。平均聴力40dB以内では、86耳中8耳(93%)で応答が得られた。

## 考 察

1. アンケートによって、得点が0点では、ほぼ健聴と判断してよい。得点1点では、滲出性中耳炎児の約半数が含まれており、耳鼻科医の診察を受けたほうがよい。得点が2点以上になると感音難聴児が含まれる可能性があり、精査を要する。

2. ささやき声聴取検査では、5単語正答を合格ラインとすると、健聴児は全員がpassするが、滲出性中耳炎児も約半数がpassしてしまう。感音難聴児では、1例を除いて正答は3語

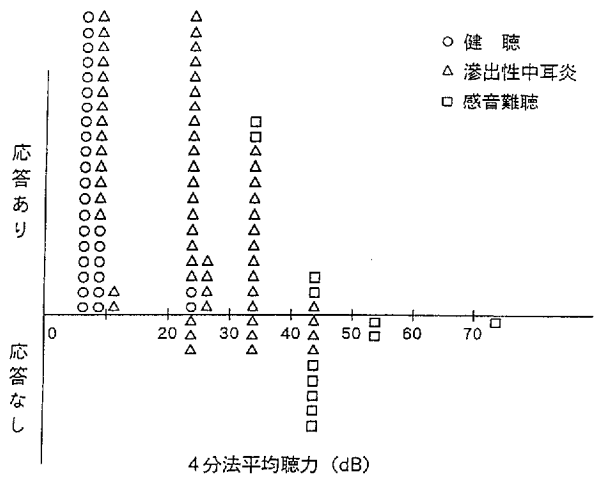


表2 指こすり音聴取検査

以下であった。

検出には有効だが滲出中耳炎は大部分がpass

3. 指こすり音聴取検査では、応答の域値は  
40dBぐらいと考えられる。これは、感音難聴の

してしまった。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 目的

平成2年10月より、三歳児検診に聴覚検査が取入れされた。東京では、第一次検診には医師や検査者は参加せず、家庭で聴覚チェックをしてもらう方式でパイロットスタディを行ってきた。その内容は、アンケート・ささやき声聴取検査・指こすり音聴取検査である。今回われわれは、耳疾患のため帝京大耳鼻咽喉科及び帝京大市原病院を受診し、診断が確定した小児に対し、医師またはSTがこれらの検査を施行し、この方式の有効性を検討した。